

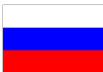
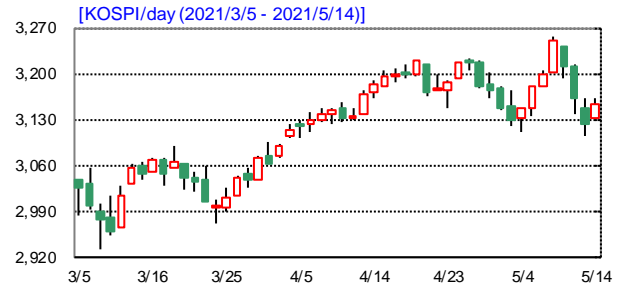


【韓国】 総合指数は週間で1.4%安と反落、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.4%安と反落した。米国で金利先高観を背景にハイテク株が売られ、ソウル市場でも半導体株が下げて相場の重荷となった。週明け10日の時点では低金利が長期化するとの見方が根強く、総合指数は4営業日続伸した。しかし同日終値が3249.40ポイントと史上最高値を更新したこともあって、11日に反落。4月の米消費者物価指数（CPI）が急上昇したことから、米連邦準備理事会（FRB）が予想よりも早く金融の引き締め動く可能性が警戒され、12日と13日も下げた。14日は前日の米株式相場の反発を受けて4営業日ぶりに反発している。今週は神経質な展開か。米インフレへの過度な警戒感の後退し、割安感の出た銘柄に買いが入るものの、米国の景気指標や長期金利に相場が左右されそうだ。

▼指数チャート

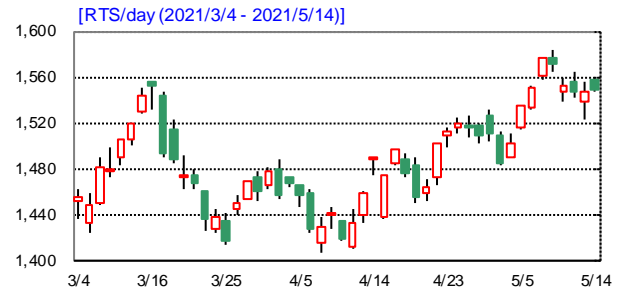


【ロシア】 RTS 指数は1.8%安と反落、今週は海外株や原油相場に左右されるか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.8%安と反落。高値警戒感が強まる中、米国のインフレ加速懸念も重しとなり、13日まで4日続落した。前週に昨年2月以来の水準を回復した反動で10日は利益確定売りに押され、前営業日比0.4%安と5日ぶりに反落。11日は米4月CPIの上振れへの警戒感から主力優良株が売られ、指数は1.2%安と続落。その後も13日まで小幅に続落し、14日は5日ぶりに小幅反発して週の取引を終えた。個別ではエネルギーのガスプロムが3.2%、スルグトネフテガス優先株が2.4%、空運のアエロフロート・ロシア航空が2.6%上昇した一方、金融のモスクワ取引所が6.4%安、ズベルバンク・オブ・ロシア優先株が5.3%安、VTB銀行が5.0%安となり、指数を押し下げた。今週は海外株や原油相場をにらんだ展開か。

▼指数チャート

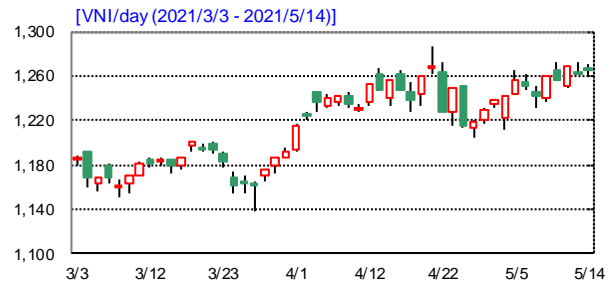


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.0%高と続伸、今週は国内勢の買いで堅調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.0%高と続伸。国内勢の買いで有力株が上昇した。週明け10日は前営業日比1.4%高と3日ぶりの反発。海外勢が売り越しとなったが、国内勢の押し目買いで食品加工のマサン・グループが6.9%高となったほか、鉄鋼のホア・ファット、エネルギーのペトロベトナム・ガス、金融のベトインバンク、テクコムバンク、不動産のビンホームズが2-3%上昇し、指数を押し上げた。指数は12日に1269.09ポイントで引け、終値の過去最高値を更新。14日は1266.36ポイントと最高値圏で週のと引きを終えた。個別ではマサン・グループが週間で13.8%高と急伸し、ベトインバンクが7.3%、ゴム製品のベトナム・ラバーが6.0%上昇した一方、不動産のビングループが5.1%下落した。今週は国内勢の買いで堅調持続か。

▼指数チャート

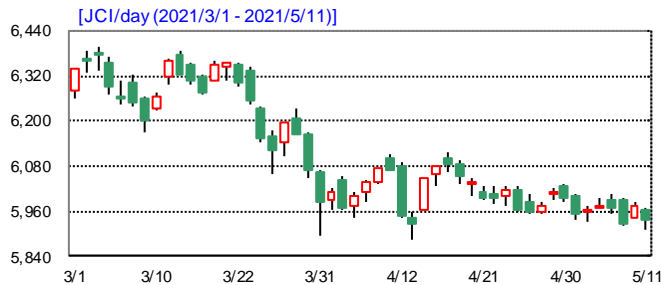


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.2% 高、今週は 4 月の貿易統計に期待

ジャカルタ総合指数は 2 日間の取引で 0.2% 高と 4 週ぶりに反発。断食明け大祭の連休を目前に控え、様子見ムードが広がった。週初の 10 日は、前週末に発表された 4 月の米雇用統計で非農業部門雇用者数の伸びが市場予想を大幅に下回り、米ドル安ルピア高が進んだ効果で、指数は 3 営業日ぶりに反発。一方、11 日は前日の NY ダウが下落したほか、新型コロナウイルス変異株の感染拡大に対する警戒感の高まりが嫌気され、反落して連休前の取引を終えた。今週は 20 日に 4 月の貿易統計が発表される予定。外部要因では 20 日に公表される 4 月開催の米 FOMC 議事要旨の内容などが指数を左右する展開か。

▼指数チャート

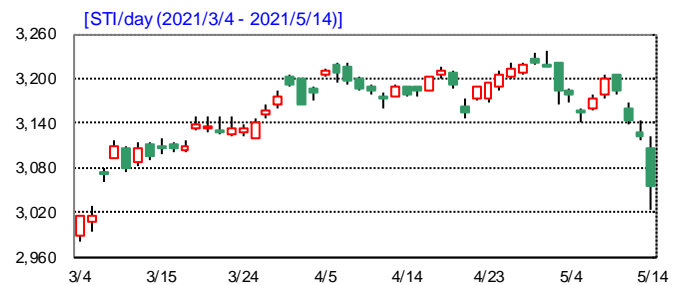


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 4.5% 安、新型コロナ対策の再強化発表を嫌気

ストレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 4.5% 安と続落。経済イベントが少ない中、週初から 4 営業日続落と軟調だった。10 日は前週末の NY ダウが過去最高値を更新したものの買い材料視されず、指数は 3 営業日ぶりに反落。11 日は米国の早期利上げ懸念が広がった影響で前日比 1.2% 下落した。12 日はアジア各国での新型コロナウイルスの感染者数増加が嫌気されると、祝日を挟んだ 14 日は変異株の感染拡大防止策として 16 日から規制が強化されるとの発表を受け、前営業日比 2.2% 安と終値で約 2 カ月半ぶりの安値を更新して引けている。今週は 17 日発表の 4 月の非石油地場輸出に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート

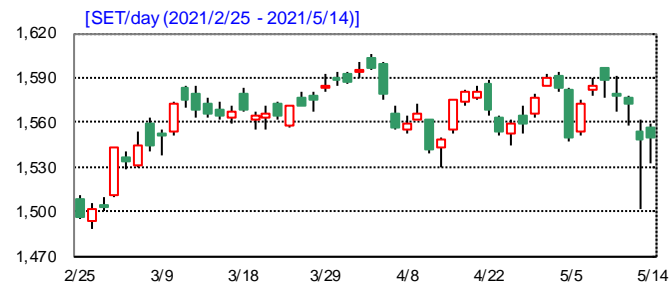


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.2% 安、今週は 1-3 月期の GDP が焦点

SET 指数は週間で 2.2% 安と 4 週ぶりに反落。買い材料に乏しく、不安定な値動きだった。週初の 10 日は、米国での金融緩和が長期化するとの見方が広がった効果で 3 営業日続伸した一方、11 日は金融株とエネルギー株が売られて反落。12 日に続落すると、13 日は原油価格の下落に加え、バンコク市内の刑務所で新型コロナウイルスの集団感染が発生し、国内の 1 日当たりの感染者数が過去最多となったことが売り材料視され、指数は前日比 1.5% 下落した。ただ、14 日は反動で 4 日ぶりに反発して引けている。今週は 17 日の 1-3 月期の GDP に続き、21 日には 4 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。

▼指数チャート

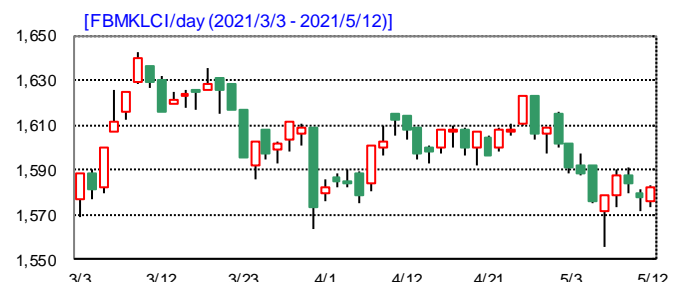


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.3% 安、全国的な行動制限措置の導入を嫌気

クアラルンプール総合指数は 3 日間の取引で 0.3% 安と 3 週続落。週後半に連休を控え、狭いレンジでの値動きとなった。週初の 10 日は新型コロナウイルスの感染拡大が嫌気され、3 営業日ぶりに反落。11 日は 1-3 月期の GDP が前年同期比 0.5% 減と市場予想から上振れしたものの、前日に新たな行動制限措置の全国的な導入が発表された影響で続落した。一方、ハリヤブアサ前日のため半日立ち合いとなった 12 日は、1-3 月期の純利益が 2 桁増だったパブリック銀行を含む金融株が買われ、反発して連休前の取引を終えている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。